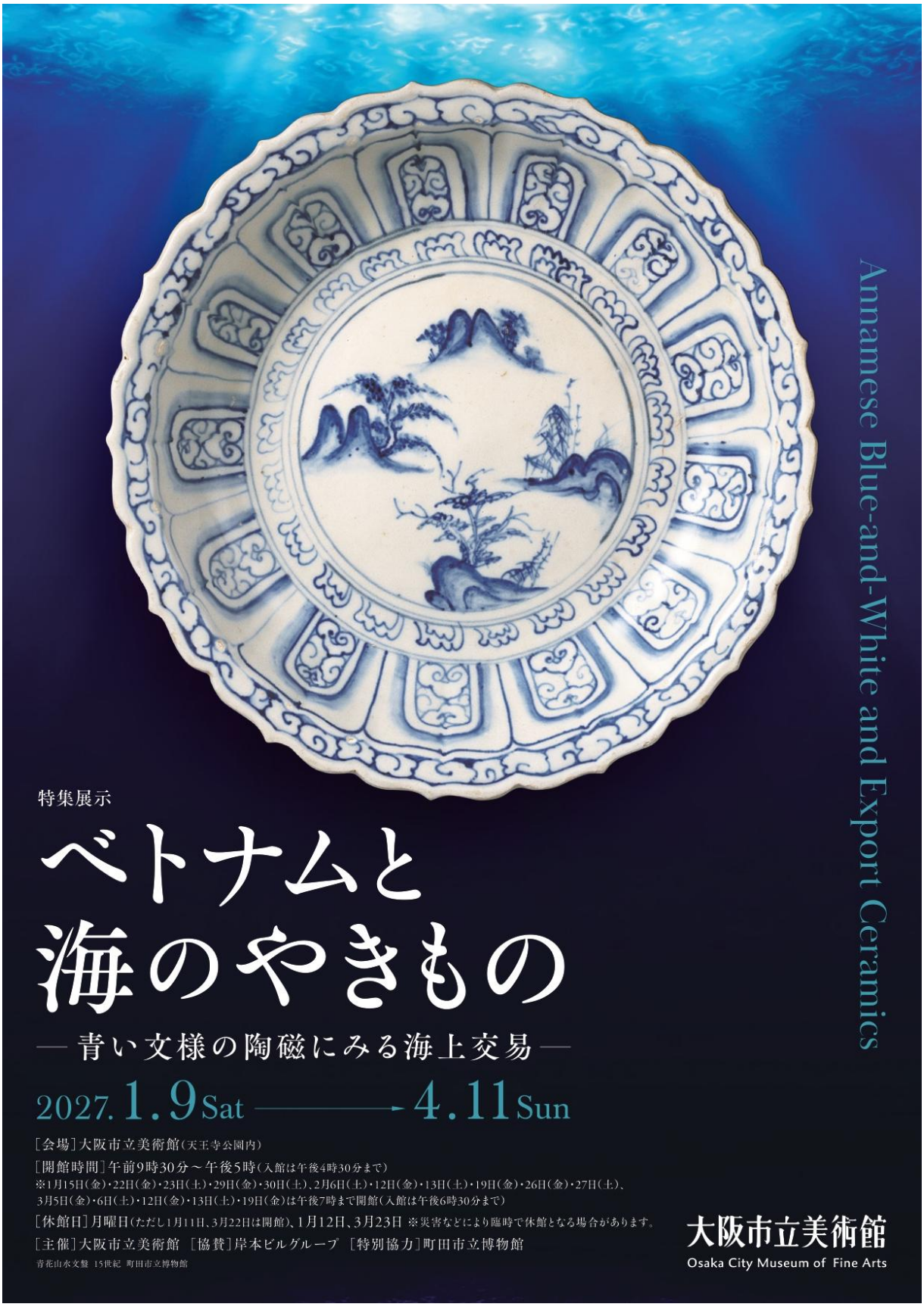
報道関係者各位

2027 年 10 月 8 日

Press Release

[2027 年 1 月　大阪市立美術館にて開催決定!]



《 報道関係者お問い合わせ先 》

大阪市立美術館　総務課広報担当：廣本・木下

TEL：06-6771-4874　FAX：06-6771-4856

E-MAIL：osaka-art-museum03@ osaka-art-museum.jp

■開催趣旨

ベトナムでは、陳朝 14 世紀頃より、やきものにコバルトで絵付けを施した青花（せいか）の技法が導入されました。これは中国・元時代に景徳鎮窯（けいとくちんよう）で完成された技法で、ベトナム陶磁も大きくその影響を受けています。15〜16 世紀の黎朝（れいちょう）期には李朝・陳朝以来の陶磁生産を基盤としつつ、国際市場への輸出が本格化し、ベトナム陶磁は東南アジア島嶼部（とうしょぶ）などへ流通し、大きく発展しました。その実態をよく示すのが、ホイアン沖で発見された沈没船からの引揚陶磁です。無傷のものだけでも約 15 万点に及び、精緻な作から簡略な絵付けのものまで、多様な需要に応じて生産・輸出されていた様相を今に伝えます。

本展では、岸本ビルグループ所蔵のホイアン沈船引揚陶磁をはじめ、ベトナム陶磁のコレクションとして名高い舛田（ますだ）コレクションや町田市立博物館所蔵の優品を通して、ベトナム青花をご紹介します。あわせて、コンダオ沈船やカーマウ沈船などベトナム近海の沈船引揚陶磁も取り上げ、海を介したやきものの広がりをご覧いただきます。素朴で温かみのあるベトナム陶磁の世界をお楽しみいただくとともに、15〜18 世紀の陶磁貿易のダイナミズムを感じていただければ幸いです。

■開催概要

展覧会名：　ベトナムと海のやきもの　―青い文様の陶磁にみる海上交易―

会　期：　2027年（令和９年）1月9日（土）〜4月11日（日）

会　場：　大阪市立美術館（大阪市天王寺区茶臼山町1-82　天王寺公園内）

休 館 日：　月曜日（ただし、1月11日、3月22日は開館）、1月12日、3月23日
※災害などにより臨時で休館となる場合があります。

開館時間：　午前9時30分〜午後5時（入館は午後4時30分まで）
※1月15日（金）・22日（金）・23日（土）・29日（金）・30日（土）、
2月6日（土）・12日（金）・13日（土）・19日（金）・26日（金）・27日（土）、
3月5日（金）・6日（土）・12日（金）・13日（土）・19日（金）は午後7時まで開館
（入館は午後6時30分まで）

観覧料(税込)：　一般：500円（団体400円）　高大生：200円（団体160円）
※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方（介護者1名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）
※団体料金は20名以上。※特別展「円山応挙　リアルの先へ 空間革命」（2月6日（土）〜4月4日（日）開催）の期間中は、当日の特別展観覧券をご提示いただくと無料でご観覧いただけます。※同時開催の企画展示も無料でご観覧いただけます。

主　　催：　大阪市立美術館

協　　賛：　岸本ビルグループ

特別協力：　町田市立博物館

作品件数：　約50 件

展覧会公式サイト：https://www.osaka-art-museum.jp/planned_exhibition/vietnam

■主な出品作品



青花山水文盤　15世紀　町田市立博物館



青花牡丹文盤　15世紀　町田市立博物館



青花窓絵花文瓶　15世紀　町田市立博物館



青花象形水注　15～16世紀　町田市立博物館



青花金貼花透彫合子　15～16世紀　舛田コレクション



青花茄子形容器　15～16世紀　町田市立博物館



ホイアン沈船引揚陶磁　15～16世紀　岸本ビルグループ

■関連イベント

①スペシャルトーク

2027年1月22日（金）　17時00分～18時00分

※終了後、展示室にてギャラリートークも実施します。（約30分）

講　師：新井崇之氏（町田市立博物館 学芸員）

テーマ：「青花から見る中国とベトナムの歴史と文化」

会　場：大阪市立美術館　１階じゃおりうむ

参加費：無料（ただし、当日の観覧券の提示が必要）

定　員：100名

※予約不要、当日30分前より会場前にて整理券を配布。

②見どころレクチャー

2027年3月6日（土）　17時00分～17時30分

解説員：杉谷香代子（大阪市立美術館 主任学芸員）

テーマ：「沈没船と引揚陶磁」

会　場：大阪市立美術館　展示室

参加費：無料（ただし、当日の観覧券の提示が必要）

※予約不要、本展の会場展示室入口にお集まりください。